

2017年3月23日／浪宏友ビジネス縁起観塾

## 善き友がすべて

### 1. 概要

#### (1) 資料

増谷文雄著『阿含經典2』（ちくま学芸文庫）／実践の方法（道）に関する經典群／道相應／2半

#### (2) 主題

釈迦牟尼世尊は、善き友をもつことが修行のすべてであると説きます。その真意を訊ねてみたいと思います。

### 2. アーナンダの質問

#### (1) 経文

「かようにわたしは聞いた。

ある時、世尊は、サキャ（釈迦）族の住むサッカラという村にあられたことがある。

その時、長老アーナンダ（阿難）は世尊のましますところに到り、世尊を拝して、その傍らに坐した。傍らに坐した長老アーナンダは、世尊に申しあげた。

「大徳よ、わたしどもが善き友情をもち、善き仲間をもち、善き交遊をもつことは、この聖なる修行のなかばにもひとしいと思うのですが、いかがでありますか」（増谷文雄編訳『阿含經典2』

ちくま学芸文庫、p.164）

#### (2) アーナンダの質問

釈迦牟尼世尊は「善き友」をもつことの大切さを繰り返し繰り返し説いていました。従者としてお側にいるアーナンダは、何度もこの教えを聞いていました。アーナンダは、善き友をもつことは「この聖なる修行のなかばにもひとしい」ほど重要なのだと考えました。

アーナンダは、自分が考えたことをそのまま釈迦牟尼世尊に申しあげて、教えを請いました。

#### (3) 修行のなかば

「聖なる修行」を推進し、支える要素がいくつかあって、その中の一つが「善き友情をもち、善き仲間をもち、善き交遊をもつ」ことであり、これが要素の半分を占めると、アーナンダは考えたのでありましょう。「残りのなかば」として何を考えたのかは、経文には表れていません。

「聖なる修行」を推進し、支える要素としては、このほかに仏・法・戒などが考えられます。これらが残りの半分だと考えたのでしょうか。

### 3. 釈迦牟尼世尊の答え

#### (1) 経文

「アーナンダよ、そのように言うてはいけない。アーナンダよ、そのように言うてはいけない。アーナンダよ、善き友情をもち、善き仲間をもち、善き交遊を有するということは、これは聖なる修行のなかばではなくして、そのすべてである」(増谷文雄編訳『阿含経典2』ちくま学芸文庫、p.164)

#### (2) 善き友をもつことは修行のすべて

アーナンダから質問された釈迦牟尼世尊は、即座に「善き友情を持ち、善き仲間を持ち、善き交遊をもつ」ことが、「聖なる修行のすべてである」とお答えになりました。その理由が次に述べられています。

### 4. 修行を重ねる期待

#### (1) 経文

「アーナンダよ、善き友情をもち、よき仲間をもち、善き交遊を有する比丘においては、聖なる八支の道を修習し、その修行を重ねるであろうことを、期して俟つことができるのである」(増谷文雄編訳『阿含経典2』ちくま学芸文庫、p.164)

#### (2) 修行を重ねる期待

- ① 聖なる八支の聖道を修習する修行者は、「善き友情、善き仲間、善き交遊」に支えられて、その修行を重ねることが期待されるわけです。
- ② この経文の裏側を読めば、「善き友情、善き仲間、善き交遊を持たない修行者は、聖なる八支の道の修習を重ねることが期待できない」ということになりましょう。これはすなわち、単独で修行を続けることは困難であるということではないでしょうか。

### 5. 聖なる八支の道

#### (1) 経文

「アーナンダよ、では、善き友情をもち、善き仲間をもち、善き交遊を有する比丘においては、どのようにして聖なる八支の道を修習し、その修行を重ねるであろうか。

アーナンダよ、ここにおいて比丘は、欲望の対象を遠ざかり、貪りを離れ、滅しつくし、ついに煩惱を捨てることによって、正しい見方を修習するのである。

また、欲望の対象を遠ざかり、貪りを離れ、滅しつくし、ついに煩惱を捨てることによって、正しい考え方を修習するのである。

また、欲望の対象を遠ざかり、貪りを離れ、滅しつくし、ついに煩惱を捨てることによって、正しい言葉を修習するのである。

また。欲望の対象を遠ざかり、貪りを離れ、滅しつくし、ついに煩惱を捨てることによって、正しい行為を修習するのである。

また、欲望の対象を遠ざかり、貪りを離れ、滅しつくし、ついに煩惱を捨てることによって、正しい生き方を修習するのである。

また、欲望の対象を遠ざかり、貪りを離れ、滅しつくし、ついに煩惱を捨てることによって、正しい努力を修習するのである。

また、欲望の対象を遠ざかり、貪りを離れ、滅しつくし、ついに煩惱を捨てることによって、正しいことに念いをこらすこととなるのである。

また、欲望の対象を遠ざかり、貪りを離れ、滅しつくし、ついに煩惱を捨てることによって、正しいことに心を専注するのである」(増谷文雄編訳『阿含経典2』ちくま学芸文庫、p.164~165)

## (2) 貪り・煩惱との闘い

① 修行者は、「欲望の対象を遠ざかり、貪りを離れ、滅しつくし、ついに煩惱を捨てきる」ことによって、「正しい見方、正しい考え方、正しい言葉、正しい行為、正しい生き方、正しい努力、正しい念い、正しいことに心を専注する」の八支の道を修習するのです。

これは、自分の中にうごめく貪り・煩惱との闘いにほかなりません。

② 貪り・煩惱との闘いに打ち勝つのは、簡単なことではありません。

善き友をもつことによって、聖なる道を教えられ、道を誤ったときには修正され、正しく歩んだときには証せられ、迷ったときにはアドバイスを受けるなどしながら、自分の身心に深く染みついた貪り・煩惱と闘うことができますし、打ち勝つこともできるのです。

## 6. 善き友をもつ意義

### (1) 経文

「アーナンダよ、このようにして、善き友情をもち、善き仲間をもち、善き交遊を有する比丘においては、聖なる八支の道を修習し、その修行を重ねることとなるのである。

アーナンダよ、このことによって、善き友情をもち、善き仲間をもち、善き交遊を有するということは、この聖なる道のすべてであるということが判るではないか」(増谷文雄編訳『阿含経典2』ちくま学芸文庫、p.165)

### (2) 善き友を持つ意義

聖なる八支の道の修習に入るにも、継続するにも、「善き友情、善き仲間、善き交遊」が欠かせません。このことを、聖なる道のすべてと言っているのでありましょう。

## 7. 釈迦牟尼世尊を善き友とする

### (1) 経文

「アーナンダよ、人々はわたしを善き友とすることによって、病まねばならぬ身にして病いより解脱し、老いねばならぬ身にして老いより解脱し、死なねばならぬ身でありながら死より解脱するのである」（増谷文雄編訳『阿含経典 2』ちくま学芸文庫、p.165-166）

### (2) 苦悩から出られない

ここに、「病まねばならぬ身・老いねばならぬ身・死なねばならぬ身」とあります。「病・老・死」は、避けることのできない現象です。人びとは、避けることのできない「病・老・死」を避けようとして苦しんでいるのです。

### (3) 釈迦牟尼世尊を善き友とする

釈迦牟尼世尊は、「わたしを善き友とすれば、病・老・死の苦悩から抜け出すことができる」と述べています。

修行者たちはこの上ない善き友をもって、苦悩から抜け出す道を学び、実践することができるのです。

## 8. 聖なる道のすべて

### (1) 経文

「アーナンダよ、このことによっても、善き友情をもち、善き仲間をもち、善き交遊を有するということが、この聖なる道のすべてであるということが判るではないか」（増谷文雄編訳『阿含経典 2』ちくま学芸文庫、p.166）

### (2) 聖なる道のすべて

先ほどは、善き友をもつことによって聖なる八支の道を歩み続けることができるとありました。ここでは、釈迦牟尼世尊を善き友とすることによって、病・老・死の苦悩から解脱することができるかと説かれています。

「聖なる修行」を推進し支える要素は、このほかにも教えとか戒の実践などいろいろとあると思いますが、善き友をもつことによって、そのすべてが働きを現すのでしょうか。

こうしたことから、「善き友情をもち、善き仲間をもち、善き交遊を有する」ことが、聖なる道のすべてであると釈迦牟尼世尊は強調したのだと思います。

なかでも、釈迦牟尼世尊を善き友とすることが、もっとも望ましいことは、言うまでもありません。

## 9. 仏教の神髄

### (1) 釈迦牟尼世尊を善き友とする

現代に生きる私たちも、釈迦牟尼世尊を善き友とすることができます。

多くの仏教者によって現代に伝えられた釈迦牟尼世尊の教えを、正しく学び、正しく理解し、正しく実践することに努めれば、釈迦牟尼世尊を善き友とすることができるのです。

### (2) 仏教の神髄

庭野日敬師による、妙法蓮華経如来寿量品における次の解説が、仏教の神髄を表わしていると思います。

「もしわれわれが、いつも『自分は久遠実成の本仏に生かされているのだ』という自覚を深くもち、『久遠実成の本仏に生かされているかぎりには、そのみ心のおりに生きることが正しい生きかただ』という明快な真実を悟り、本仏のみ心にもとづいて説かれたお釈迦さまの教えにしたがって生きてゆきさえすれば、つねに大自信をもった生活ができ、人生苦などはあってもなきにひとしくなってしまうのです。

それが、ほんとうの人間らしい生きかたであり、この品（妙法蓮華経如来寿量品）は、最大の要点としてこのことをおしえられたのです」（庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』佼成出版社、p.169）

### (3) お釈迦さまの教え

ここに、「本仏のみ心にもとづいて説かれたお釈迦さまの教えにしたがって生きてゆきさえすれば」とあります。

釈迦牟尼世尊の説かれた教えにしたがって生きてゆくことが、釈迦牟尼世尊を善き友とすることにほかなりません。ここから、ほんとうの人間らしい生きかたが始まるのです。